

令和3年度市全体の店舗調査集計結果の概要と考察

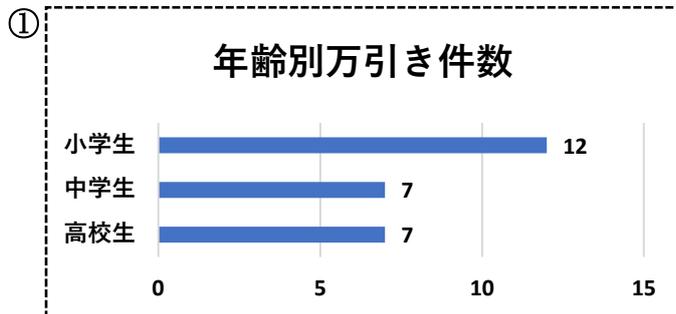
★調査協力店舗数 計 99店舗

★地区別調査店舗数

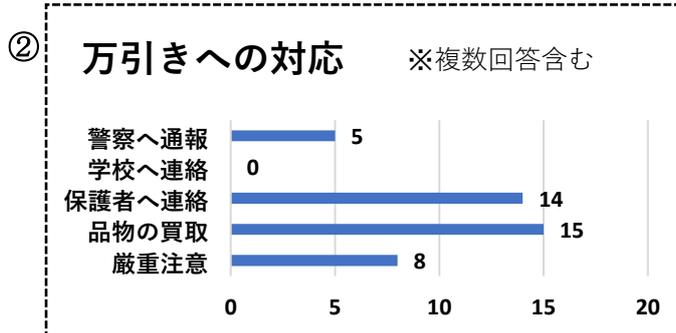
地区名	調査店舗数	地区名	調査店舗数
南流山	16	北部	12
南部	8	常盤松	14
東部	8	西初石	8
八木	10	おおたか・おおぐろ	14
東深井	9		

※緊急事態宣言中であつたため、カラオケ店の中には、休業中で調査できなかった店舗があつた。

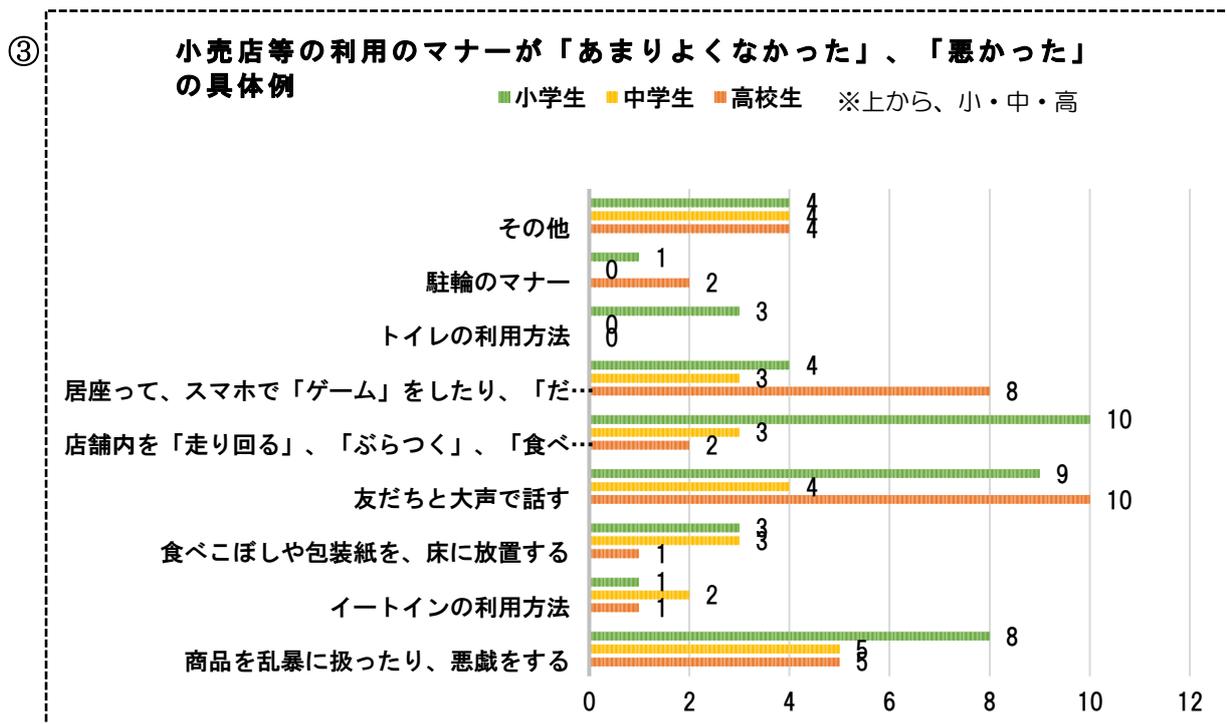
■調査結果の現状について



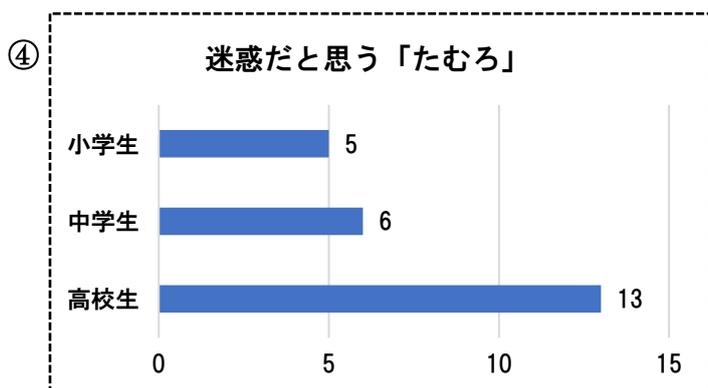
① 昨年度と比較して、万引き件数は40件から26件へ減少したが、校種別に比較してみると、昨年度と同様に小学生の万引きが多い傾向にある。



② 万引きへの対応は、基本的に保護者連絡・品物の買取である。学校への連絡をしないのが現状であるため、保護者が家庭で十分に指導し、再犯を防止することが大切である。

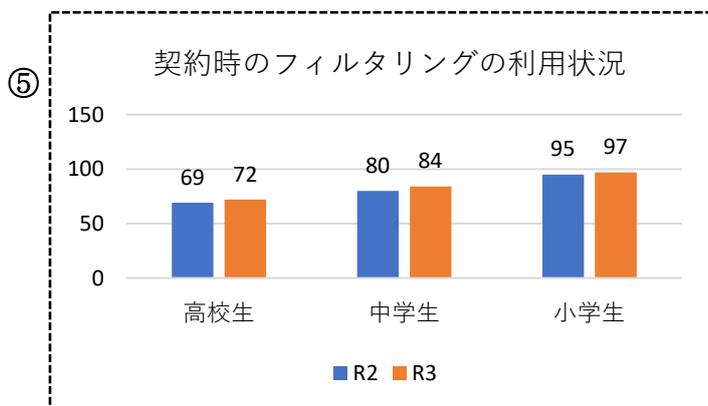


③については、コロナ禍の状況への慣れなども原因にあるのか、昨年度はあまりマナーについてマイナスの回答は少なかったが、今年度は店内での行動の仕方についてマイナスの回答が増加しています。特にグラフを見ると、高校生の「友達と大声で話す」「店内での長時間の居座り」についての増加、また、小学生の「商品の扱い方」「店内を走り回る、食べ歩く」など、一般的なマナーについて課題があるのがわかる。このグラフには項目として入っていないが、今年度、小学生（小学生以下の幼児等も含む）について聞き取りした中で、「悪戯する子を保護者が注意しない」という回答が多く見られました。このことから、子どもたちへの日常の直接的な働きかけだけでなく、子どもたちの一番身近にいる大人たちの、子どもたちに対する正しい関わりが大切だと言えるのではないのでしょうか。



④昨年度はほとんど見られなかった「たむろ」が増加しています。今回の調査では、「今、迷惑だと思うたむろ」で回答してもらっています。子どもたちの行動の様子がうかがえる結果です。

携帯電話店の調査結果では、利用者の年齢（校種）の確認、また、スマートフォンにおけるフィルタリングの必要性や内容の説明、説明書の交付を市内7店舗中全店舗が実施しています。下の⑤にあるように、フィルタリングの利用状況も昨年度より増加しています。この調査では対象としていませんが、子どもたちのスマートフォンの使い方（SNS やインターネット）に関するトラブルは、かなり増加しています。購入時だけでなく、購入前、そして購入後の使い方＝情報モラル教育は、子どもたちにとっては必要不可欠な教育となっています。また、買い与える大人が、便利な面と危険性についてよく理解していることも大切です。



⑤フィルタリングの利用状況は、昨年度に比べ増加しています。フィルタリングの必要性が理解されている結果ではないかと思えます。

市全体の調査結果についてまとめました。